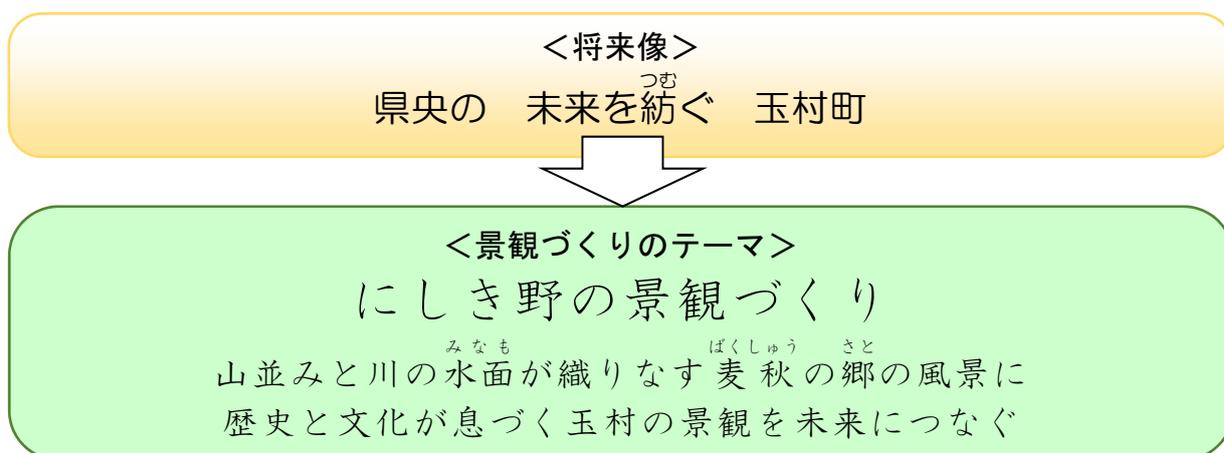


3 将来像及び基本目標

3-1 将来像

景観づくりを進めるにあたり、目標とする将来像は、「第5次玉村町総合計画」の都市像である「県央の 未来を紡ぐ 玉村町」を踏襲するものとし、これを景観づくりの側面から実現するため、景観計画に「景観づくりのテーマ」を設定するものとします。

(1) 景観づくりのテーマ



玉村町は、平坦な地形に優良な農地が広範に広がり、河畔の緑と一体となった利根川や烏川の水辺など、美しく豊かな自然に恵まれた町です。「麦秋の郷」を支えるこれら伸びやかな空間は、赤城、榛名、妙義からなる上毛三山や浅間山など町域を越えた周囲の山並みの眺望を可能にしており、これらの眺望景観が玉村町の根幹をなす景観を形づくっています。

また、日光例幣使道の宿場町として往時の面影を残す旧玉村宿の街並み景観や、玉村八幡宮をはじめとする社寺景観、平坦な地形に孤丘をなし地域のランドマークとなっている軍配山古墳の景観など、多くの歴史的景観を有しています。

一方、市街化区域に町の主たる市街地が形成される一方、これまでの町の成り立ちから、町全域に集落や住宅地が広く分布する地域特性を有しており、近年、東毛広域幹線道路(国道354号)や高崎玉村スマートインターチェンジが整備され、町の骨格をなす軸や拠点としての役割が期待されるなど、町に新たな魅力を加える条件が整いつつあります。

このことから、玉村町の景観づくりでは、「麦秋の郷」を表す農地や水辺、これらと一体となって形づくられる上毛三山などの眺望景観、さらには旧宿場町としての風情が感じられる歴史的景観を守り・活かしながら、暮らしの場としての魅力ある景観を創り、育てていくことを目指し、『にしき野の景観づくり』をテーマに、住民共有の大きな財産となる景観づくりを進めます。

●にしき野

- 玉村を中心とした滝川、上陽、芝根を総称して錦野と呼んでいたとの記述が町名伝説にあります。(雲外子 1933「玉村傳説」『上毛及び上毛人』190号)

●麦秋の郷

- 二毛作地帯である玉村では、水田耕地面積の8割超で麦の作付けが行われており、初夏には麦にとっての収穫の秋となる「麦秋」の風景が一面に広がります。



(2) 景観づくりの理念

景観づくりのテーマに沿った取り組みを進めるための基本的な考え方として、次の理念を設定します。

景観づくりのテーマ

「にしき野の景観づくり」
山並みと川の水面が織りなす麦秋の郷の風景に
歴史と文化が息づく玉村の景観を未来につなぐ

今ある良いもの・特徴的な
ものを守っていく視点



新しい価値や魅力を付け加え、
創り出していく視点

玉村の原風景を守り・
活かした景観づくり

豊かな暮らしや地域の
活力が表れた景観づくり

○玉村の原風景を守り・活かした景観づくり

人々の価値観の変化や科学技術の発達、町の発展や私たちの暮らしの向上に大きく寄与した反面、地域の位置的条件や地形条件、歴史・風土に関わりなく、同じような景観を全国に出現させました。

玉村町の景観づくりでは、ただ単に「見た目の良さ」だけを追うのではなく、町固有の原風景を守り・さらに磨きをかけて次代につなぐ景観づくりを目指します。

このため、上毛三山や浅間山などへの眺望やこれらを背景とした伸びやかな田園景観、また、日光例幣使道の宿場町としての面影を残す街並みなど、何ものにも代え難い玉村町の財産を守り、これらを活かしてさらに魅力を高めていくことを理念とします。

○豊かな暮らしや地域の活力が表れた景観づくり

景観は「見ることのできる環境」として、まちの総合的な暮らしやすさの良否を測る「ものさし」といわれています。

玉村町の景観づくりでは、町への愛着や誇りを醸成するとともに、にぎわいや活力が感じられるなど、玉村町の持続的な発展や暮らしやすさなどが表れる景観づくりを目指します。

このため、今ある町固有の原風景を守り・活かすことに加え、景観に新たな価値や魅力を付け加え、創り出すことを理念とします。

3-2 基本目標

景観づくりのテーマと理念を踏まえつつ、今後何を「まもり(保全)」「いかし(活用)」「つくり(創出)」「よいものにし(改善)」「そだてる(育成)」ことが必要となるのか、基本目標として次の4つの方向を示します。

基本目標1：「まもり、いかす」

**ふるさとも感じさせる田園風景と山並みへの眺望を守り、
旧宿場町としての歴史文化を活かした景観を未来に継承する**

利根川や烏川などの豊かな水に育まれた、「麦秋の郷」の田園風景や、それらの背景となる上毛三山や浅間山などの山々の眺望などによって構成される景観は、自然の豊かさを印象づけるとともに、ふるさととしての町への愛着を醸成する源となっています。

また、日光例幣使道の宿場町の面影を残す街並みや玉村八幡宮などの歴史的建造物は、社寺の森と一体となって、町の歴史と文化を語る景観となっています。

こうした自然の豊かさや歴史文化を表す景観資源については、かつて「にしき野」と表現された地域の大切に守るべき財産としてその価値を再認識し、住民相互で共有するとともに、先人が築き、残してきた固有の風景として未来へと引き継ぐことを目指します。

基本目標2：「つくる」

**町への愛着や誇り、豊かな暮らしが感じられる
魅力的な街並みを創り出す**

利根川や烏川などの豊かな水を背景とした農村地帯、日光例幣使道の宿場町、河岸のある木材・米の積み出し拠点としての発展を経て、高崎市や前橋市などに隣接するベッドタウンとして、そして東毛広域幹線道路(国道354号)の整備によって向上した交通利便性を活かした産業・働く場へと、時代とともに町の姿も変化しており、農地や住宅地、商業地、工業地などの多様な土地利用とそこに立地する建築物が相まって、景観が形づくられてきています。

「県央の 未来を紡ぐ 玉村町」とする将来像の実現には、将来を通じた持続的な発展が不可欠なことから、特徴ある自然的・歴史的景観資源を守り、活かしながらも、住宅地の落ち着きやすさ、商業地や町の拠点における賑わい、活力の感じられる工業地や幹線道路沿道など、それぞれの区域が持つべき役割を果たしつつ、新たな魅力を感じさせ、愛着や誇りの感じられる、魅力ある街並み景観の創出を目指します。

**基本目標3：「よいものにする」**

**ふるさと感じさせる風景の価値を尊重し、
調和に向けて風景や街並みを良いものにしていく**

市街化調整区域を含め、町全域に集落や住宅地が広く分布する地域特性に加え、近年の技術の進歩や住民の生活様式、価値観の変化に伴い、景観を構成する建築物においても、形状や色彩、素材の多様化が進んでいることから、市街化の進展とともにふるさと感じさせる風景も姿を変えていくことが考えられます。

自然を大切にす価値観や歴史文化を重んじる価値観、現代的なデザインを指向する価値観、経済性や効率性を重視する価値観など、多様な価値観を認めながらも、山並みへの眺望やふるさと感じさせる田園風景を、住民共有の財産として尊重し、これらの景観や周辺の街並みとの調和への「気配り」の観点から改善・修景を進め、より良い景観の形成を目指します。

基本目標4：「そだてる」

愛着や関心を持って、みんなで協働してふるさとの風景を育てる

玉村町のふるさと感じさせる「にしき野」の風景は、先人達が残し、創ったものであり、その風景が私たちの町に対する愛着や誇りを醸成しています。

私たちも、暮らしに関わる行動一つ一つが景観を守り、創り、その結果生み出された景観が、次代の住民の暮らしの豊かさや、町への愛着・誇りにつながっていくことを自覚する必要があります。

このため、住民としてできることは住民が、行政がなすべきことは行政が景観づくりに取り組むなど、それぞれの役割分担と連携のもと協働してふるさとの風景を育て、未来へと引き継ぐことを目指します。



国道354号と田園風景